

| | | | | | | | |
|----------------------|---|--|------|----------------|------|--------|--------|
| 科目名 | 救急救護教育指導演習 | | | 分野・必選別・ 単位数 | 専門科目 | 選択 | 4単位 |
| 担当教員 | ◎准教授 茂呂浩光 准教授 岩崎 隆 講師 高梨利満 講師 菊川忠臣 助教 酒本瑞姫 | | | | | 科目ナンバー | T5C110 |
| 課程 | 修士 | 配当年次 | 2年 | 配当学期 | 通年 | 授業方法 | 演習 |
| 授業の概要 | 救急救護固有の学問領域を構築するためには、現行の経験則偏重の教育指導から脱却し、科学的な解析方法による検証と教育理論に根ざした教育指導法を模索していくことが基本となる。そのために本演習では、「救急救護総論」で学修した内容を、新たな教育法で実習し、またその問題点を検証し、実践的な教育力を身に付けるものである。具体的には、「救急救護教育指導特論」の講義内容と現場実践が有機的に連動する教育指導のあり方、さらに臨地実習(シミュレーション、同乗実習、臨床実習)のそれぞれの目標、指導法、到達度評価を統一的に行える教育法を修得する。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | ①実際の臨地実習に臨み、現場指導者の教育・指導内容を適正に検証・評価できる。 ②現行の教育内容・教育指導法を批判的に検証し、臨地実習を理論付けしながら、改善策を提示できる。 ③PDCAサイクルを踏まえて学修目標の設定、カリキュラムの編成、指導要領の策定、到達度の評価ができる。 | | | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 担当者 | 行動目標 | | | | |
| | <p>【第1～5週】 授業計画及び指導要領策定演習 学修目標の設定、授業計画および指導要領の策定、到達度評価について説明ができる。</p> <p>【第6週～第12週】 シミュレーション演習 実習現場に臨み、教育指導者の指導内容・指導法を評価できる。 その評価に基づき、教育方法改善策を示し、実習指導ができる。</p> <p>【第13週～第17週】 臨床教育指導演習 実習現場に臨み、教育指導者の指導内容・指導法を評価できる。 その評価に基づき、教育方法改善策を示し、実習指導ができる。</p> <p>【第18週～第23週】 救急車同乗実習指導演習 実習現場に臨み、教育指導者の指導内容・指導法を評価できる。 その評価に基づき、教育方法改善策を示し、実習指導ができる。</p> <p>【第24週～第30週】 臨床実習(病院実習)教育指導演習 実習現場に臨み、教育指導者の指導内容・指導法を評価できる。 その評価に基づき、教育方法改善策を示し、実習指導ができる。</p> | | | | | | |
| 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間 | 【事前学修】 | 事前に指導内容の評価要領・評価方法を検討し、評価表を各自で作成しておくこと。 | | | | | |
| | 【事後学修】 | 授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。 | | | | | |
| | 【必要時間】 | 当該期間に60時間以上の予復習が必要。 | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | |
| 参考書 | ・杉並みど里／舟島なをみ 看護教育学 第6版 医学書院 ・John A.Dent/Ronajd M. Harden 医療教育の理論と実践 第2版 篠原出版新社 | | | | | | |
| 成績評価の方法および基準 | 授業中の発言・発表・討議50%、演習終了時の報告書50% | | | | | | |
| その他履修上の注意事項 | 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP4が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。 | | | | | | |